植物と向き合って

園芸別科　花卉専攻２年
半　田　麻　衣　子

明日は何をして遊ぼうか。そう考えながら毎日を過ごしていた高校時代が懐かしい。身近に生えている植物なんて目も留めず生活していた私ですが、今では植物について、「花組」について考えない日は無いくらいです。家の周りを歩いても、あれは何の花だろう？ あの木にはどんな花が咲くのだろうか？ と、日々疑問を頭にいだき、学校へ行く道を歩けば今日の実習は何をするのだろう？ と考えを巡らせる日々です。

園芸別科花卉専攻こと花組では、植物の栽培技術や基礎知識を習得するべく環境健康フィールドセンターで週２回、松戸キャンパスで週１回、計週３回の実習の他、夏休み、冬休みに実習を行っています。実習は毎回作業メニューが違い、土作りや播種、鉢上げ、ピンチ、出荷作業、出荷用のダンボールも作ります。農業高校を卒業した私ですが、出荷用のダンボールまで作るなんて初めての体験。ただ組み立てるだけなんて思っていた作業でも意外に重労働。汗をかきながら、時にはお互いを励ましながら目標の数を終わらせます。

「今日の実習は、鉢上げです。」そう言われれば、鉢上げには何が必要なのか、トレイの数はいくつ必要なのかを皆で考えます。また、作業が始まればどうやったら作業が早く効率的に進むのかを考え、時には意見を言い合いながら渡辺先生や技官さん達から指導を頂き実習を行っていきます。今でも戸惑うこともありますが、少しずつ花組の息を合わせて作業できるようになったと思います。

花組の仲間と（前列中央が筆者）

松戸キャンパスでは、３つのハウスの管理作業などを行っています。土作りからハウスの内張りの張替え、除草、灌水などを行います。特に入学してすぐに覚えたのは、灌水の作業です。花組では、当番を決め交代しながら灌水を行っています。気温や土の湿り具合、植物の様子を見ながら水をやります。ハウスが暑くなる前に学校に来て花に水をやる。パイナップル科は、真上からも水をやり、サボテンや多肉植物は、週に１回程度水をやる。先輩から教えられたことを実践します。夏になれば、気温とともに上がるハウス内の温度を下げるため、側窓や天窓を開け、台風が来ればハウス内に風や雨が入らないよう急いで側窓や天窓を下げます。日々変わる気候に臨機応変に対応していかなければいけません。簡単そうで、難しい作業です。

また、水をやりながら植物を観察します。1000 属検定合格のためです。属名、科名、代表種名と一緒に植物を覚えるため、植物の特徴を探します。花組の 1000 属検定の目標は､C 級合格です。C 級の合格者はＢ級を。B 級の合格者はＡ級を。各自目標をもって取り組んでいます。今まで花の名前を気にもしていなかった私ですが、友達と道を歩き植物を見ればあれは何の花？と、問題を出し合うことも。頭を抱え込むことが少なくなるよう努力が必要。植物について覚えることは山のようにあり、もっと勉強しなければいけないと焦る気持ちで落ち着かないこともあります。

時間はあっという間に過ぎていきます。実習や 1000 属検定をこなしていく間にも秋になります。秋といえば戸定祭です。いろんな方の力を借りて、戸定祭成功のため今年も奮闘します。自分たちで考えて行動に移さなければいけないことも次々でてきます。花選びから販売まで、花組に入らなければ出来なかった体験です。植物を通じて将来役に立つことを学んでいます。実習を通して先を考えるということ、そして人への思いやり、他にも沢山ありますが、いろんなことを学びながら花のプロを目指すため私はいつも植物と向き合っています。